

非行少年の心に迫る

令和4年12月23日

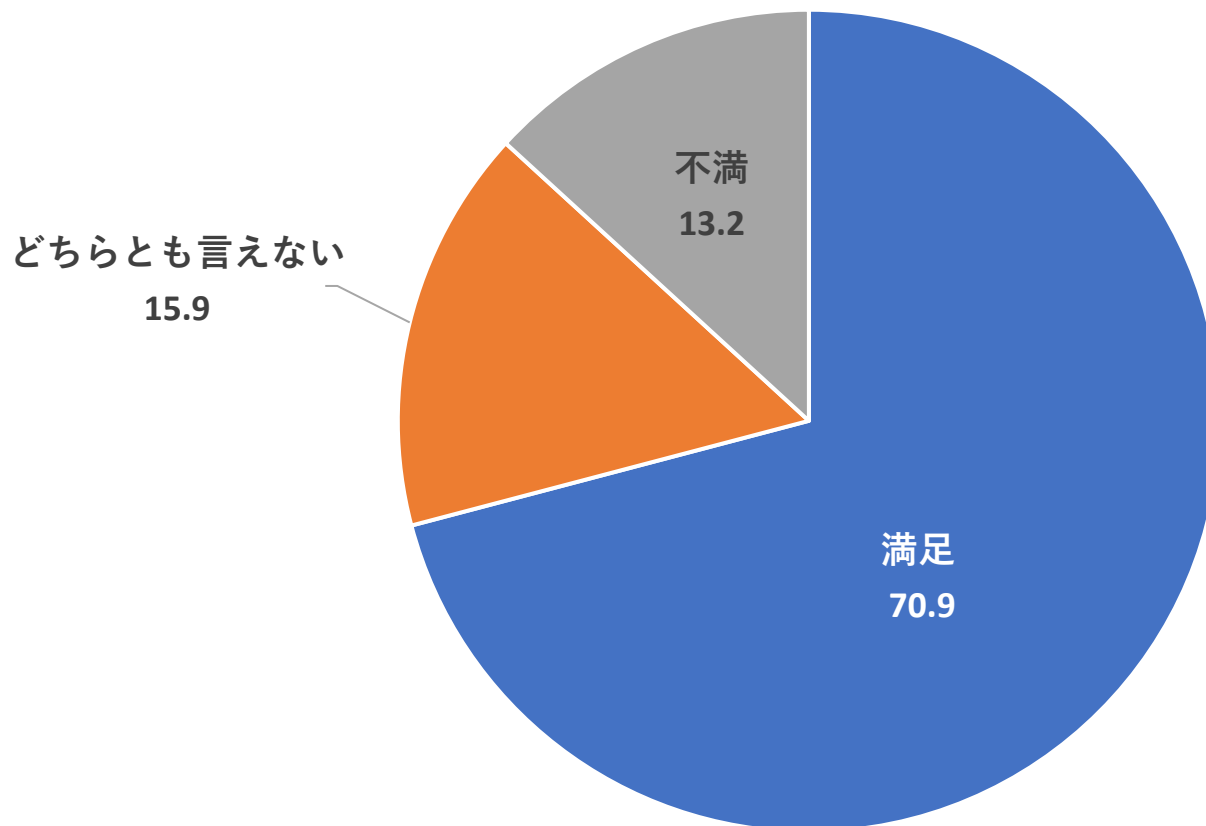
東灘区保護司会
和田 道夫

法務総合研究所 研究部報告 63
「犯罪者・非行少年の生活意識と
価値観に関する研究」で分類された

非行程度が高いグループ
少年152人のアンケート結果
からの一考察

家庭生活に対する満足度

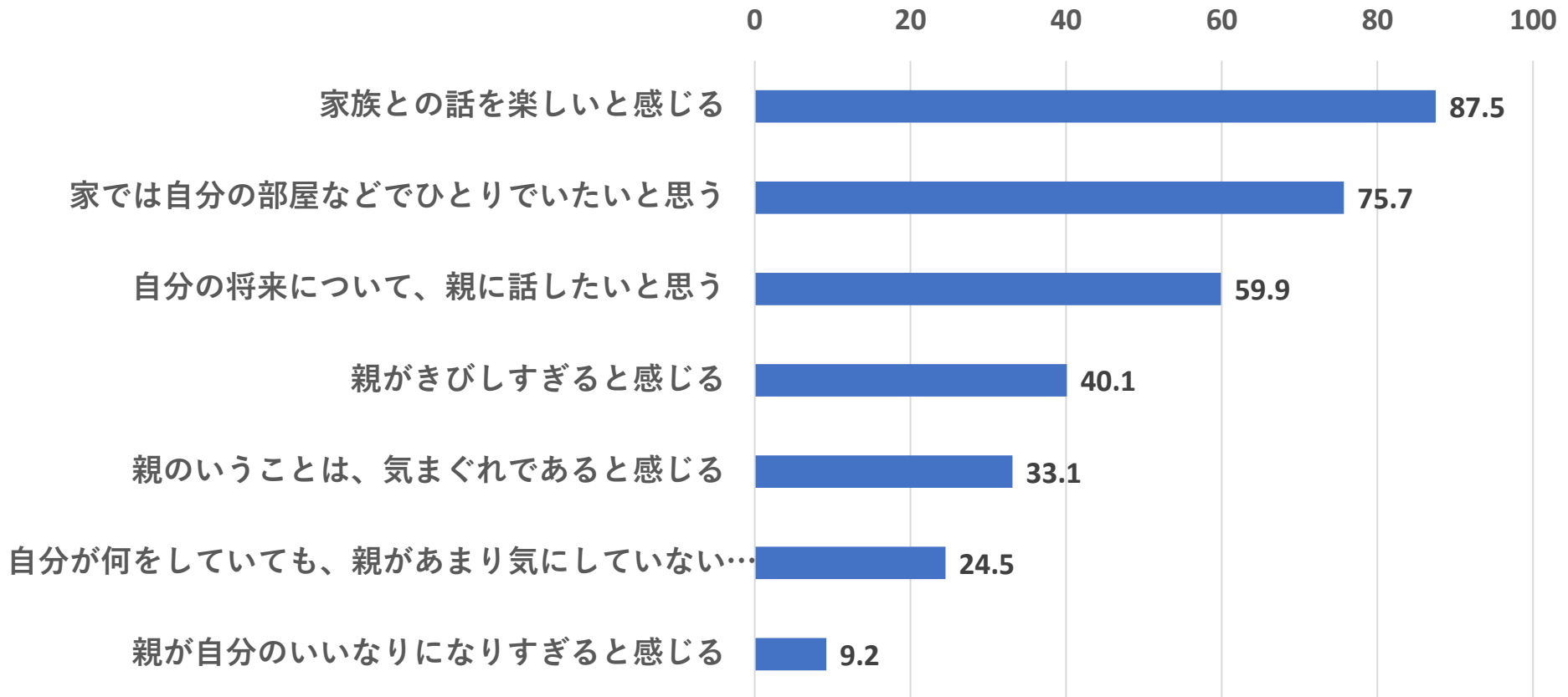
総数 1 5 1 人



「満足」の構成比が高い。

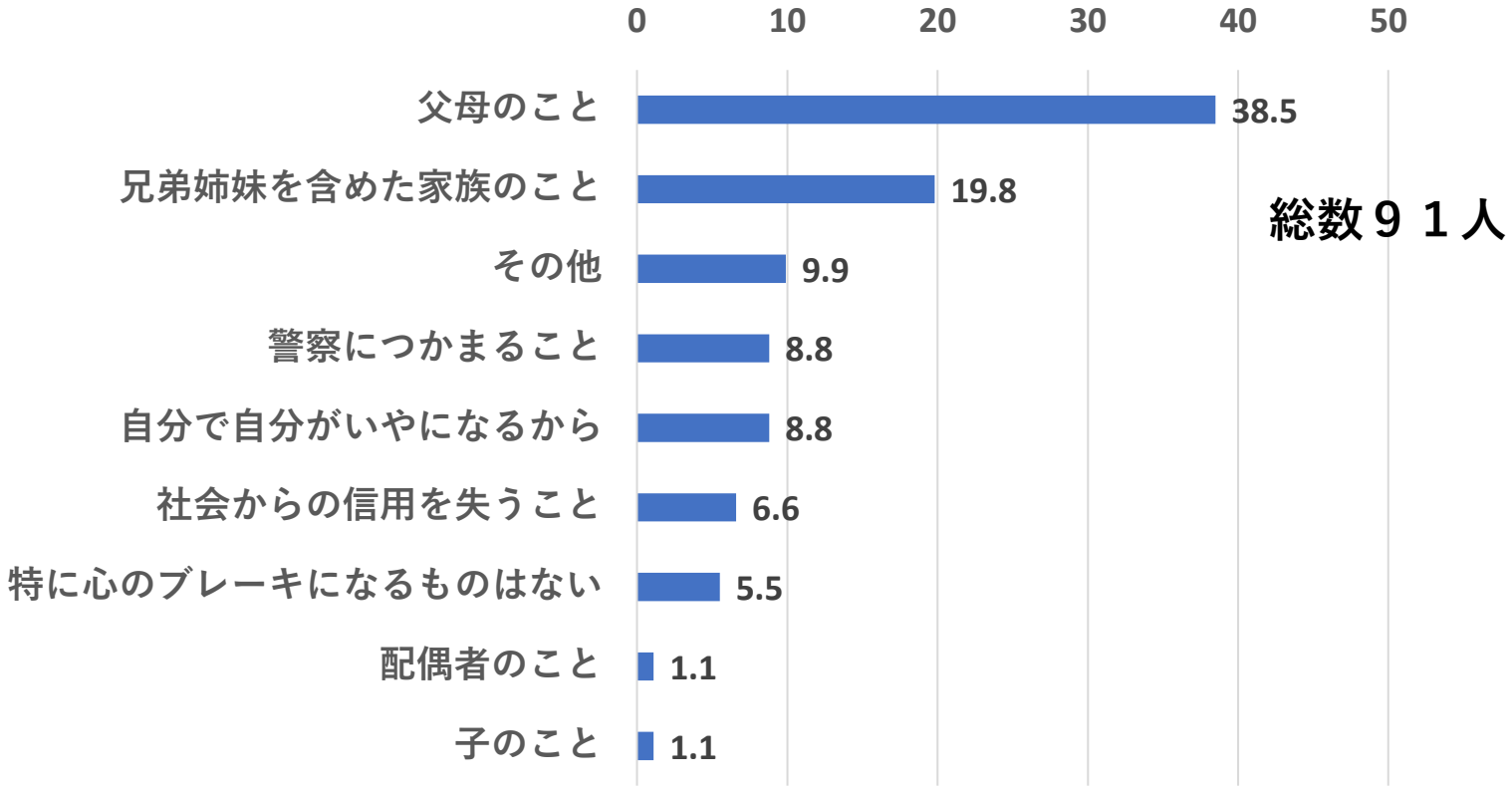
家族との関係

総数 152人



「家族との話を楽しいと感じる」の構成比が最も高く
「親が自分のいいなりになりすぎると感じる」が最も低い。

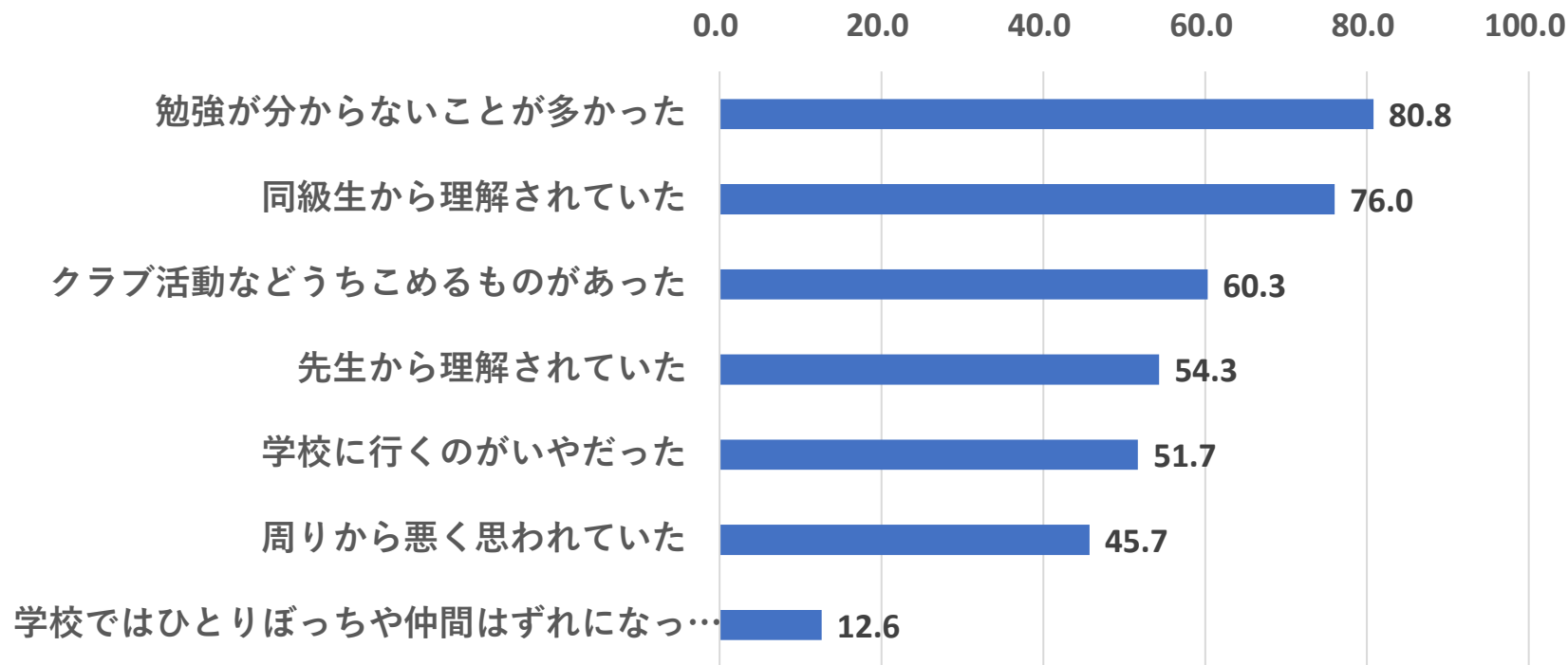
非行をしようと思ったとき、 思いとどませる「心のブレーキ」になるもの



「父母のこと」「兄弟姉妹を含めた家族のこと」
の構成比が高い。

学校生活に対する意識調査

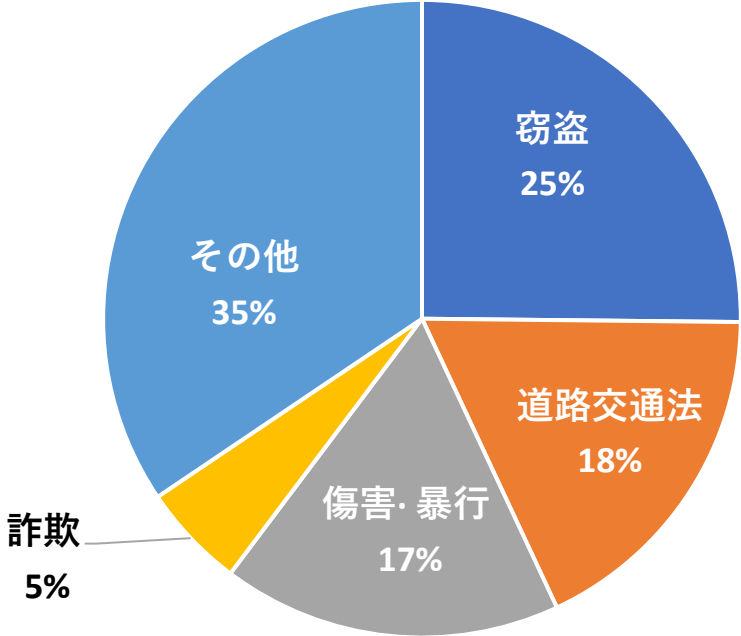
総数 152人



勉強面で困難を抱えているが、「同級生、先生から理解されていた」と学校での人間関係を肯定的に捉まえている。

非 行 名

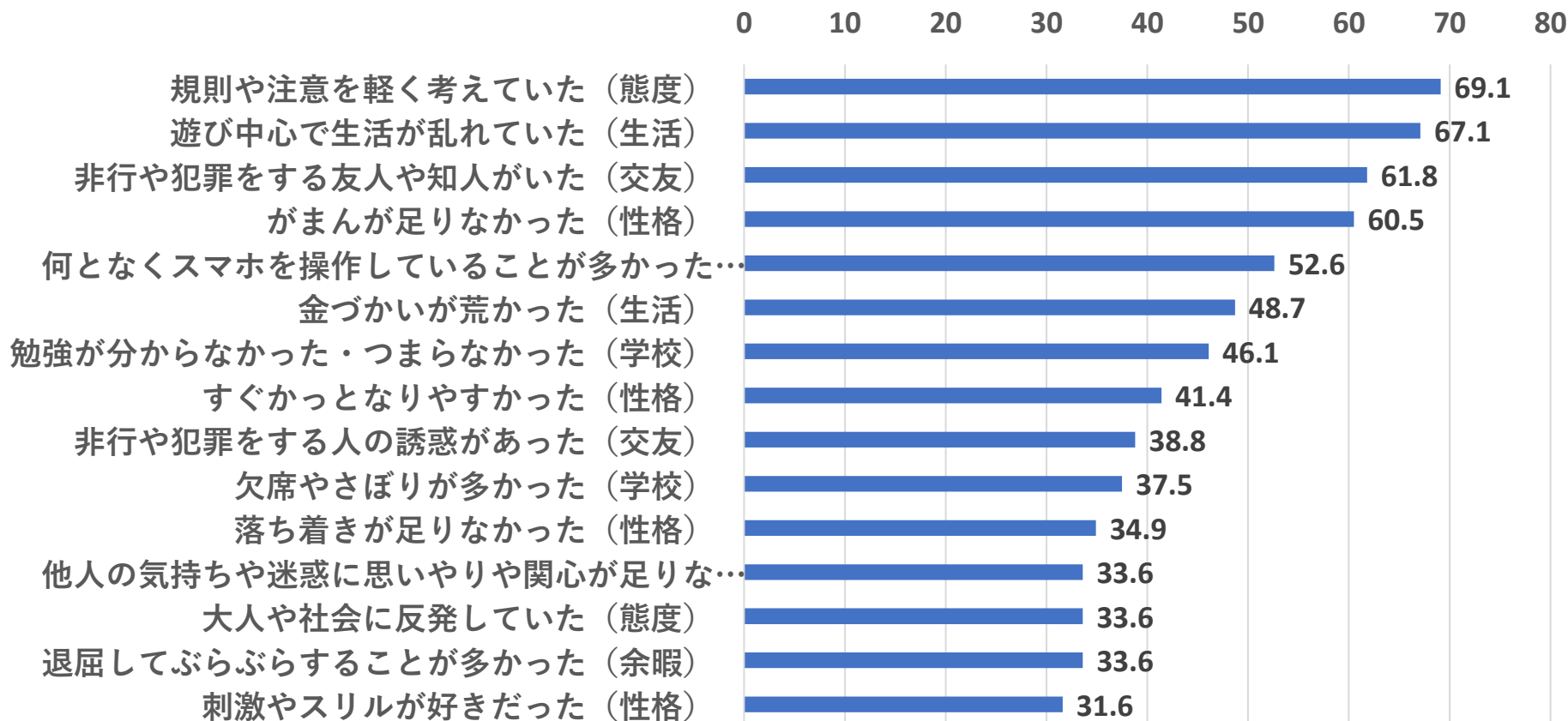
総数 1 5 1 人



- 家庭生活に「満足」し
- 家族との関係では「家族との話を楽しいと感じる」の構成比が最も高く
- 非行をしようと思ったとき、思いとどませる「心のブレーキ」になるものが、「父母のこと」「兄弟姉妹を含めた家族のこと」の構成比が高い。
- 更に、学校生活で「同級生、先生から理解されていた」と学校での人間関係を肯定的に捉まえているのに、非行をしてしまう。

自らが非行した要因についての認識

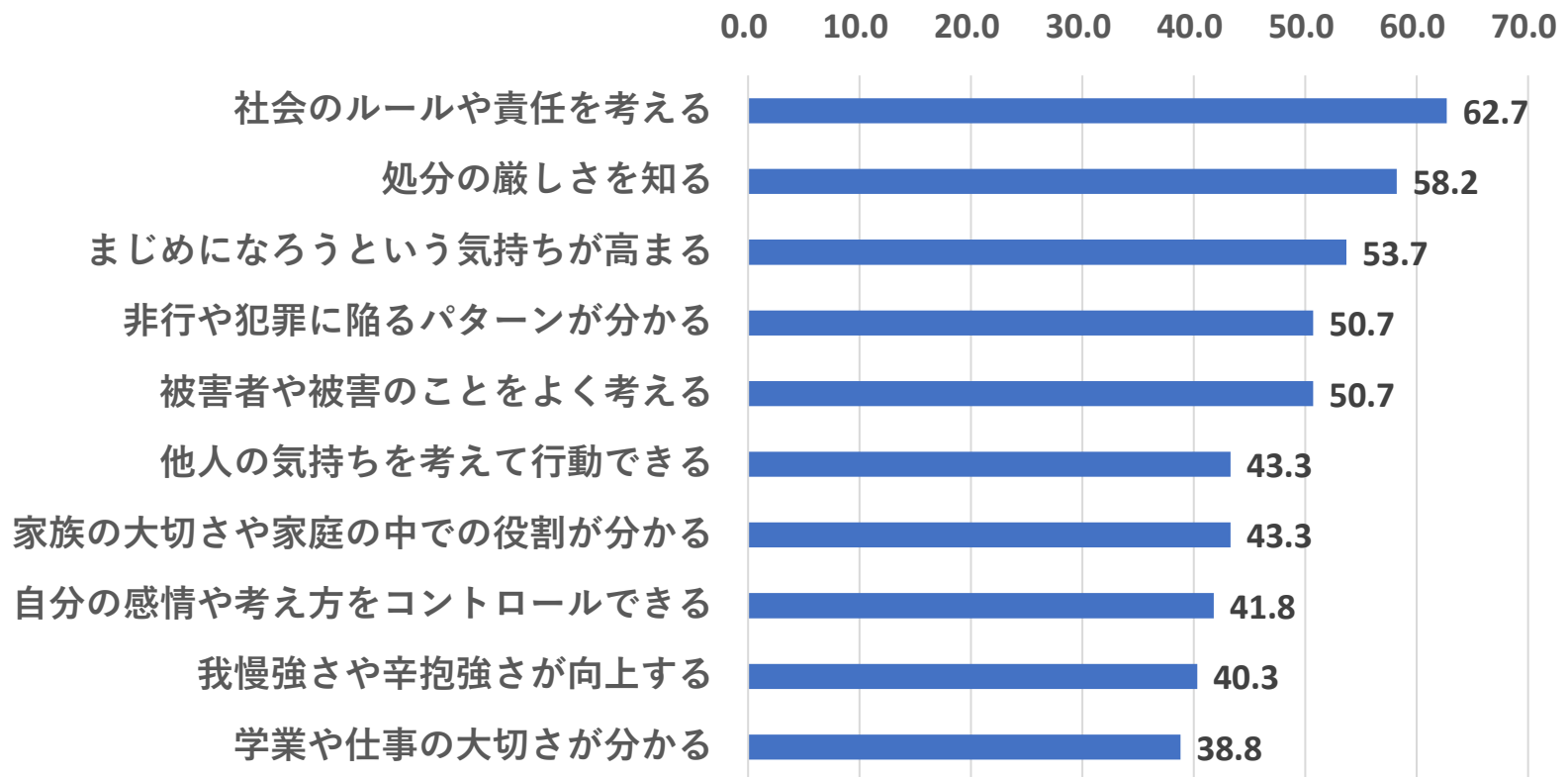
総数 152人



態度・生活・性格をはじめとして、広く自身の問題と非行との関連性を認めている者が多い。とはいえ、「非行や犯罪をする友人や知人がいた」の該当率が3番目に高い。

処分を受けて役に立ったこと (本人の認識で、効果そのものではない)

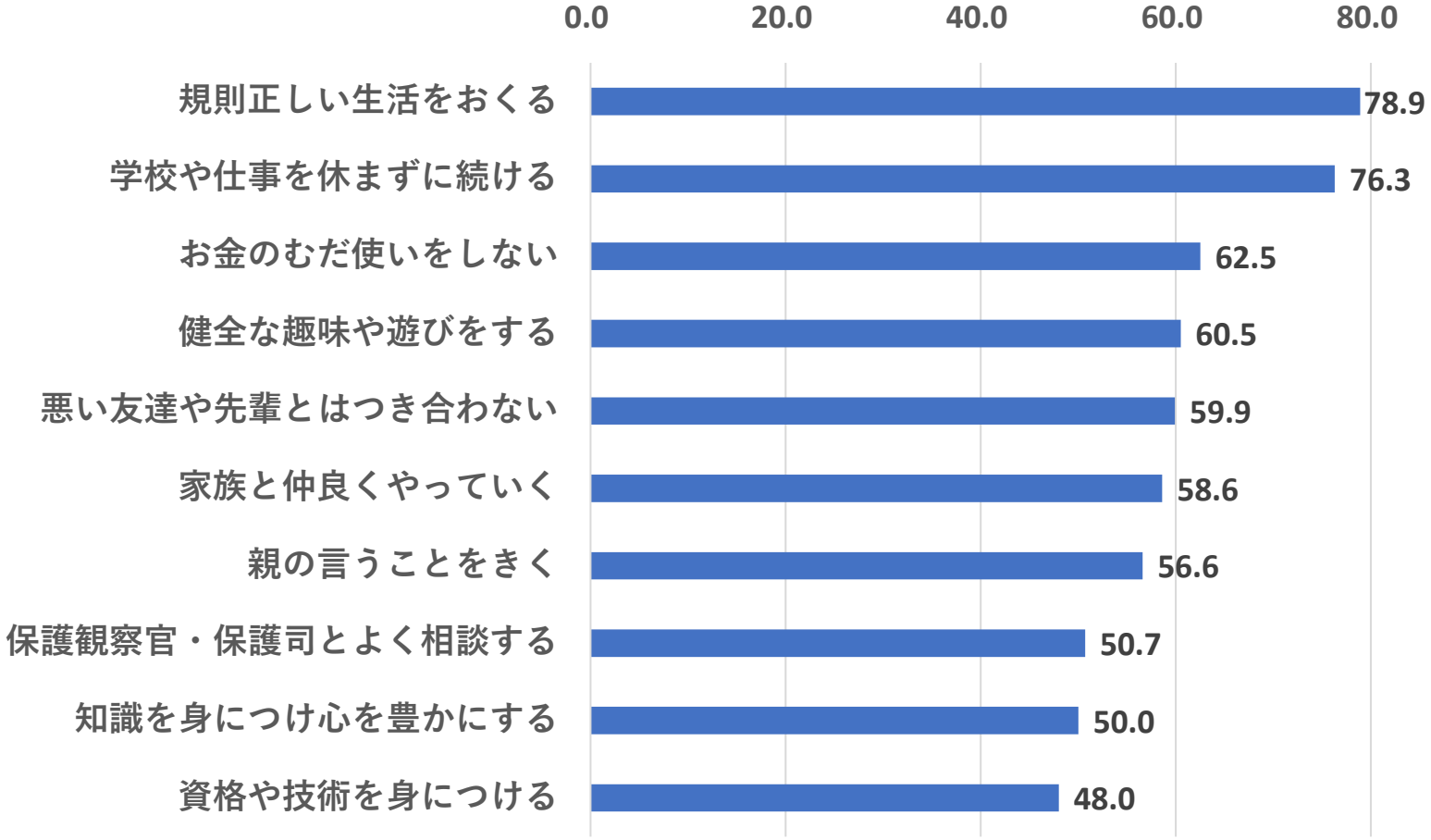
総数 67人



「社会のルールや責任を考える」「処分の厳しさを知る」などの該当率が高く、可塑性があると言える。一方、「家族の大切さや家庭の中での役割が分かる」など低いことから家族関係の見直しでは効果がないと思われる。

これからの生活で大切なこと

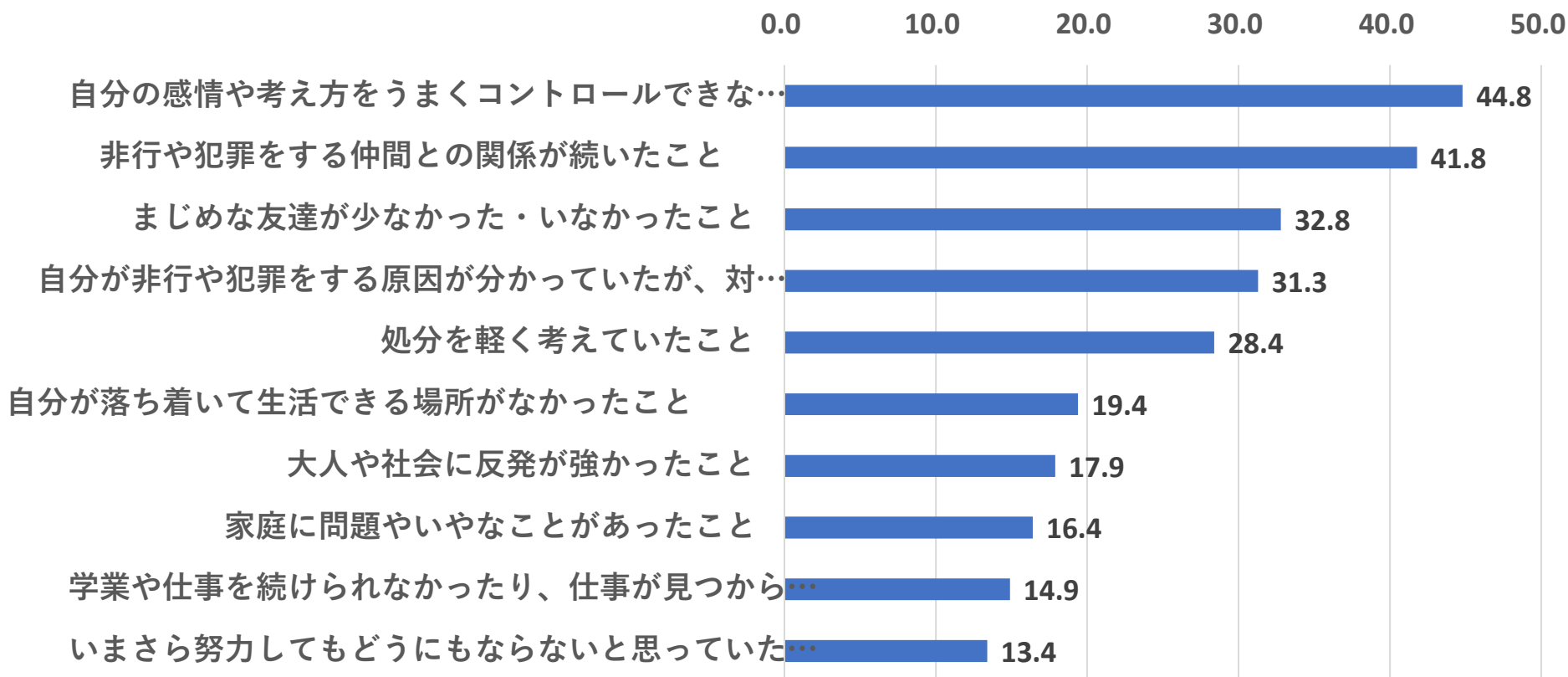
総数 152人



「規則正しい生活をおくる」「学校や仕事を休まずに続ける」「お金のむだ使いをしない」など保護観察の枠組みに沿うことの重要性に目を向けている。

改善更生と思っていたが、再非行に その要因の認識は

総数 67人



「非行や犯罪をする仲間との関係が続いたこと」「まじめな友達が少なかった・いなかったこと」の該当率が高く、交友関係の影響が大きい。

家庭生活・学校生活に対する意識

- 家庭生活に「満足」し
- 家族との関係では「家族との話を楽しいと感じる」の構成比が最も高く
- 非行をしようと思ったとき、思いとどませる「心のブレーキ」になるものが、「父母のこと」「兄弟姉妹を含めた家族のこと」の構成比が高い。
- 更に、学校生活で「同級生、先生から理解されていた」と学校での人間関係を肯定的に捉まえている

ところが、非行をしてしまう

非行した要因

態度・生活・性格をはじめとして、広く自身の問題と非行との関連性を認めている者が多い。とはいえ、「**非行や犯罪をする友人や知人がいた**」の該当率が3番目に高い。

処分を受けて役に立ったこと

「社会のルールや責任を考える」 「処分の厳しさを知る」 などの該当率が高く、可塑性があると言える。

これからの生活で大切なこと

「規則正しい生活」 「学校や仕事を休まない」 「計画的な金銭使用」 など保護観察の枠組みに沿うことの重要性に目を向けている。

ところが、再非行をしてしまう

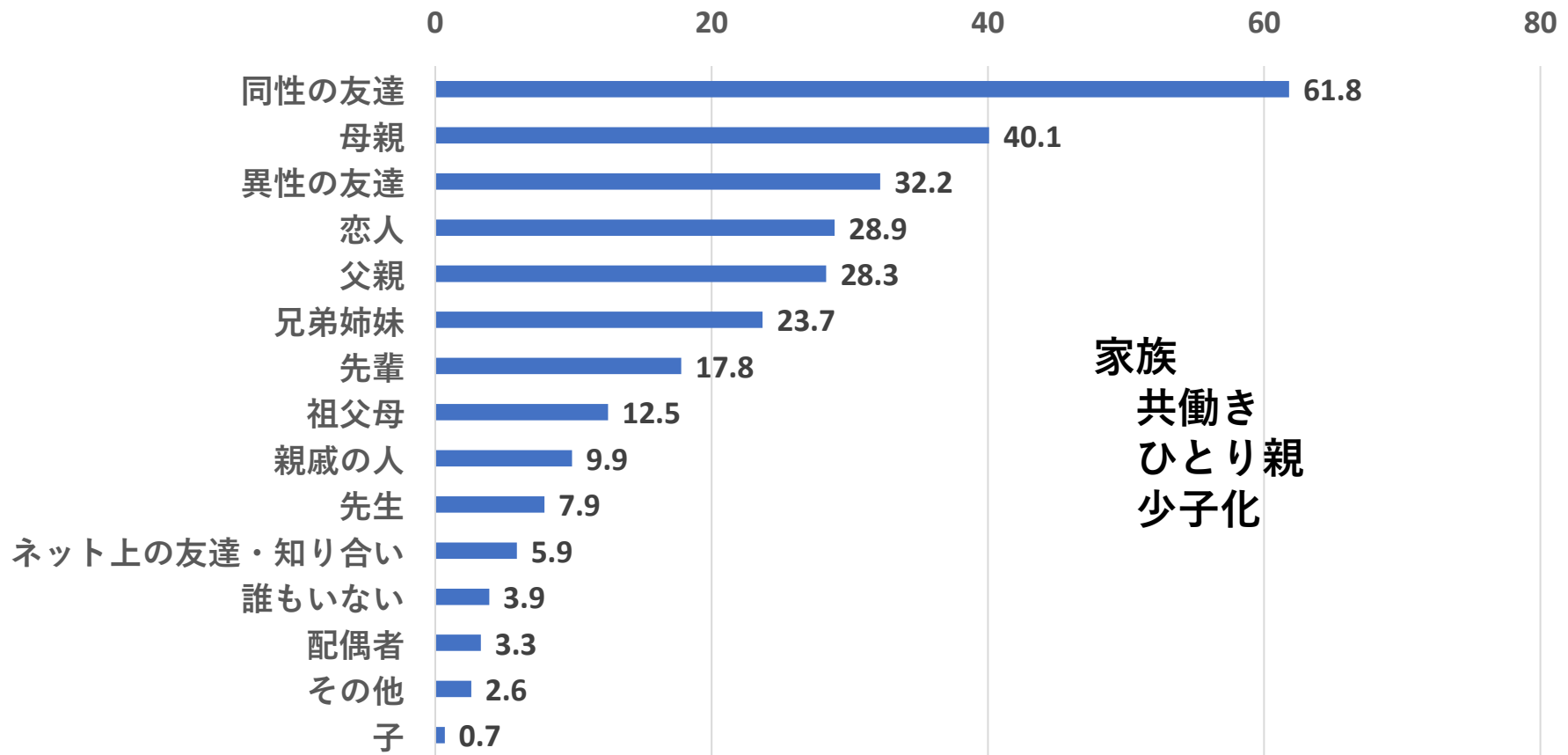


再非行した要因

「非行や犯罪をする仲間との関係が続いたこと」 「まじめな友達が少なかった・いなかったこと」 の該当率が高く、交友関係の影響が大きい。

あなたが、悩みを打ち明けられると思うのはどの人ですか

総数152人

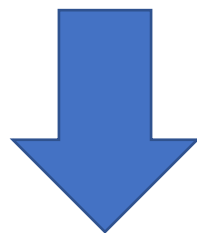


「同性の友達」の該当率が極めて高く、「母親」「異性の友達」と続く。一方、「先生」が低い。

非行の要因 ⇒ 「非行や犯罪をする**友人**や**知人**がいた」

再非行の要因 ⇒ 「非行や犯罪をする**仲間**との関係が続いたこと」
「まじめな**友達**が少なかった・いなかったこと」

あなたが、悩みを打ち明けられる
と思うのはどの人ですか ⇒ 「同性の**友達**」



不良交友からの離脱

不良交友からの離脱支援とこれに代わる人間関係構築の必要性

平成23年版犯罪白書第7編第6章第2節

不良交友からの離脱を図るためには、就労や就学を基盤とする健全な生活を送って不良交友に関わる機会を減らすように指導する一方で、**孤立を防ぐための居場所作り等の支援**が不可欠である。また、非行や犯罪を繰り返す者では、対人関係が不良交友に限られてしまい、地域社会の中で健全な社会化のモデルを見出す機会が限られていることから、社会参加活動や社会貢献活動等を通じて様々な対人的関わりを体験させ、地域社会における自己有用感を伸長させつつ、社会人として望ましい態度を内在化させ、併せて、生活基盤たる学校・職場等での新たな人間関係の構築を図らせるなどし、**不良交友に代わる建設的な人間関係や対人的サポートのネットワークを広げていくような支援**の充実化が望まれる。

令和4年版犯罪白書第8編第5章第3節

- ・・・不良交友からの離脱に向けた指導・支援をより一層充実させることも必要である
- ・・・支援機構につなげて不良交友からの離脱支援を含めた環境の調整を行うことが重要である